

アピール 玉城デニー氏の勝利で沖縄の未来を切り開こう！

沖縄を自分の問題として考える会

八月二十九日、自由党幹事長で衆議院議員の玉城デニー氏（五八歳）は、沖縄県知事選挙（九月一三日告示・九月三〇日投票）に「オール沖縄」の候補として立候補すると表明した。八月八日に辺野古新基地建設阻止の志なかばで無念にも急死した翁長雄志知事が音声で候補者にと伝えた遺志を玉城デニー氏はしっかりと継受した。自民党は前宜野湾市長の佐喜真淳氏を擁立し、公明党は推薦を決定した。この一騎打ちに、沖縄の未来が掛かっている。同時に、安倍一強となっている日本の政治の行方を左右する一大政治戦となる。

翁長氏は七月二十七日、最後の記者会見で、辺野古の埋め立て承認の撤回を表明した。翁長氏は、六月一二日の米朝首脳会談を積極的に評価し、「二〇年以上も前に決定された辺野古新基地建設を見直すこともなく強引に押し進めようとする政府の姿勢は、到底容認できるものではありません」ときっぱりと断言した。

翁長氏は二〇一四年の知事選で「イデオロギーよりもアイデンティティを」を基調として沖縄の未来を切り開くべく立候補し、一〇万票の大差で勝利した。

一六〇九年の薩摩による琉球王国への侵攻、一八七九年の「琉球処分」、一九四五年の沖縄戦では島民の約四分の一（一二万人以上）が命を奪われ、敗戦後は米軍の支配下に置かれ、七二年の「本土復帰」以後も米軍基地は国土の〇・六%の沖縄に日本全体の米軍施設の七〇%にも及び、米兵による強姦など基地をめぐる沖縄の悲惨な現実が変わっていない。本土の「平和」は、この沖縄の犠牲の上に保たれてきた。だが、この沖縄の現状を、私たち本土に住む者は直視することを避けてきた。

翁長氏は、知事選立候補の一年前に、東京でのデモに参加し、沖縄と本土とのすさまじいギャップを体験し、それがバネとなって立候補したと語っていた。前記の記者会見では「〈日本とアジアの架け橋〉に沖縄のあるべき姿がある」と提言した。

米軍基地撤去、日米地位協定の改定が課題である。この難題を実現して平和を創造しよう。

私たちは、沖縄を自分の問題として考え、行動しなくてはならないと痛感している。今度の知事選挙で何としても玉城デニー氏の勝利を勝ち取らなくてはならない。そのために出来ること——カンパ、現地でのボランティア、沖縄在住の友人・知人をリストアップして選対（別記）に伝えるなどに着手しよう。

玉城デニー氏の勝利で沖縄と日本の未来を切り開こう！

二〇一八年八月二十九日

呼びかけ人

小倉志郎 元原発技術者（神奈川県）	出口俊一 兵庫県震災復興研究センター事務局長
片山光広 元練馬区職員組合役員	連帯兵庫みなせん世話人
鎌田有子 創価学会員（東京都）	中瀬勝義 海洋観光研究所（東京都）
小泉雅英 フリーディレクター（東京都）	中原省二 基地のない平和な沖縄をめざす会（東京都）
桜井善行 労働組合役員（愛知県）	二見伸明 元公明党副委員長 元衆議院議員（茨城県）
佐藤和之 高校教員 東京西部地区私学組合連絡会委員	松本直次 ヤマギシ会東京案内所
佐藤三郎 護憲円卓会議・連帯兵庫みなせん元代表	蓑田剛治 元新聞記者（長崎県）
澤藤統一郎 弁護士（東京都）	村岡 到 季刊『フラタニティ』編集長
武市 徹 進路社代表（東京都）	吉田万三 元東京都足立区長 歯科診療所所長

連絡先：〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-22

新宿コムロビル7F2号室 進路社 気付

メールアドレス：okinawa-kangaeru@j-rp.com

玉城デニー事務所

〒902-0061 沖縄県那覇市古島2-6-5 古島テラス

電話：098-835-5065 FAX：098-835-5066

平和・誇りある豊かさを！ひやみかちうまんちゅの会

沖縄県知事選挙をどう捉えるか

11月29日（木） 7時

文京区民センター 3C（地下鉄後楽園駅）

講演：伊波洋一（参議院議員・沖縄の風）

参加費：700円

主催：沖縄を自分の問題として考える会